

第1回地域づくり市民会議における意見のまとめ

テーマ1 地域の防災力向上

◎自主防災組織

疑問・課題	市の意見
自主防災会が形だけになっている。防災委員の任期が1～2年と短いこと、委員のなり手がいないことが原因か。 〔徳倉小学校区〕	多くの自治会で、自主防災会は自治会役員の一環として行われているのが現状で、持ち回りなどで行われているため致し方ないものと思われる。基本は自治会の考え方にあるが、3～10年で行っているところもある。 自治会の自主性で選ばれた防災委員等に対し、市では研修等を行っている。任期が短い場合、ある意味多くの方が研修に参加していただくので、効果があるものと考えられる。 静岡県では防災指導員研修を行っているので、自治会として参加させることで長期委員を育てることも可能かと思う。

地域の取り組み事例

少しでも住民に防災意識を持ってもらうよう、全世帯に活動状況を記載した防災だよりを配布している。 〔錦が丘〕	
昨年、中島町内の指標を「共助の精神を育む」と定めた。有事のときに、町内の者が「おい」「おまえ」で頼んだり頼まれたりできるようなふれあいの輪、語らう土壌を醸成したい。ハード面は自治体の力を借りないといけないが、ソフト面ではそうやっていきたい。8月の防災訓練では、中学生とご飯の炊き出しを予定。おにぎりを一緒に握って、ふれあう場を作る。	
東大場では、高齢者のパワーが今年から爆発している。孤立してしまった場合のことを考え、15名で高齢者の消防隊を発足した。最高齢の方は78歳。定年退職し、いつも家にいる方に手を挙げてもらった。自主防災会の傘下に入って、これがコアになってどんどん絆を深めてほしい。向こう3軒両隣が見えるようにしたい。	
三恵台では、町内の役員全員を防災委員とすることにした。10年に一度役員が回ってくるので、10年経てば全員が防災に対して関心を持ってくれる。そういうふうにして、一人一人に経験してもらおうと。	

◎防災訓練

疑問・課題	市の意見
防災訓練のマンネリ化が課題である。誰に相談していいかも、わからない。災害があつて初めて防災訓練に出てみようという人も多くいるはずなので、どういう訓練をしたらいいのか？行政から提案をもらいたい。〔山田小学校区〕	広域(学区)の自主防災と連動して行うとかでも変化があると思う。自主防災訓練実施計画書には10項目以上のメニューがあり、それを全部実行している自主防災会は無いのが現状である。この中の組み合わせを変えることで変化を付けることが出来るものと考え、自主防災として何を重視するかによりやり方も変わるので、危機管理課に相談願いたい。
町内にはアパートが多く、学生が入っている。学生は町内との付き合いはない。防災活動に参加しない。昔から住んでいる人だけの訓練になってしまう。学生にも参加してほしい。若い人の力が欲しいが、うまく進んでいかない。〔北小学校区〕	災害時に若者の力は必要なことから、自治会として学生を巻き込むための方策を考えることは重要である。一例として、学生に予算の一部を与え、焼きそばを作っていただくとか、何かしらのイベントをお願いするなどしていくことも必要と考える。 市としても日本大学に対し、地域の防災訓練に学生が参加していただくようお願いしていく。
9月1日は、暑い中出かけるのはお年寄りにはつらい。熱中症も心配。 〔北小学校区〕	広域(学区)の自治会で活動する場合は日程調整が難しいが、単独自治会でやる場合は9月1日にこだわる必要はないので、都合のよい時期を選んで行っていただければよい。

地域の取り組み事例

見晴台では年に4～5回訓練を実施している。炊き出し、放水訓練など。その際、「避難完了」の札を各世帯に配っていて、玄関や門扉に掲示することになっている。当初は掲示する方が少なかったが、最近周知されてきている。災害時は、札の出していない家から確認すればよい。定着率が上がっている。訓練に参加しなくても、この札は下げる世帯も多い。	
東日本大震災関連のテレビで、中学生が「避難しました」というマークを玄関に出す訓練をしていた所が、実際の震災のときに実行され効率的な救助ができたというのを観た。大宮町3丁目では2～3年前から、避難した家や在宅で無事な家は黄色いハンカチを玄関に下げることにしている。他町内でもやったらどうか。	
ジュニア防災士の講座を開いた。寿町と西若町で小3～中1まで参加して1日ばかりで実施し、子ども達は大変だったと思うがよく辛抱して受けてくれた。終了後に、認定証を渡した。町内から要望があれば、講座を開く準備がある。	

◎訓練等への中高生の参加

疑問・課題	市の意見
中学生に防災訓練に参加してもらうため、訓練の日は部活なしにするなどの配慮をしていただきたい。そうなれば、校区の町内すべて同じ日に訓練をするように調整したい。〔長伏小学校区〕	9月の総合防災訓練及び12月の地域防災訓練については、県教委からの指示もあって、市教委としては中学校に対して部活動を控えて積極的に中学生を訓練に参加させるよう通知している。しかしながら三島市の場合、9月や12月の週休日に訓練を実施しない自治会もあるため、部活を中止にすると、訓練のない自治会に住む中学生は家にいるだけになってしまう。提案のように全ての自治会が同じ日に実施することになればこのような問題は解消されると考える。
昼間災害が起こった場合、頼りになるのは中高生。学校と連携をしていく必要がある。生徒にマンパワーとしての意識を持たせる教育を。〔東小学校区〕	中学校では年間3回ほどの防災訓練を実施しており、その中で中学生は助けられる立場ではなく、助ける立場であることを数年前から指導している。これを実践力に結びつけるためには、地域での防災訓練を具体的に計画し、中学生を参加させる必要がある。
中学生の地域参加の促進のため、防災訓練のとき、高校生に出している参加証明書を、中学でもやれば良いと思う。〔長伏小学校区〕	高校については、地域の防災訓練への参加促進と、参加者の実態把握を正確にするために、参加証明書をやり取りしている。中学校については参加の実態を挙手等で把握しているが、正確性を図るために参加証明書の発行について検討していきたいと考える。

◎避難経路

疑問・課題	市の意見
大場川の水位が上昇すると、避難所まで到達できない心配がある。〔東小学校区〕	避難準備情報・勧告については、川が氾濫する以前に出します。各自治会では、避難するのに安全な道筋等について、普段から検討していただきたいと思います。
避難経路の道路や橋が寸断されてしまったら、どうしたらいいのか。〔沢地小学校区、坂小学校区〕	避難経路が寸断された場合は、各自治会で定めた一時避難場所や公民館等で救助や指示があるまで待機していただきたい。状況によっては、自主防災会長等判断で、寸断されていないで行ける広域避難場所に避難していただきたい。

◎避難所

疑問・課題	市の意見
避難所に、決められただけの町内が収容できるのか。人数を把握し、最適な配置をしてほしい。〔中郷小学校区〕	市として提供できる公共施設を大規模災害に全て提供しており、市民の全てを収容できるものではない。被災した人等を収容する施設として、学区・地区毎に割り振りをしているのでご理解いただきたい。（耐震化が進み、自宅にいられないと言う人はかなり減っているものと思われる。）
一次避難所は自治会独自に決めていいのか。〔南小学校区〕	一次避難所の意味としては、地震が予知できたとき、一時避難所にまず来る。予知できない場合、近くの耐震性の高いところに避難するという意味でどこが適切か、自治会で決めてもらいたい。
高齢者等が避難所まで行くのが大変なので、耐震性がある地元の寺に避難することにしている。食糧等は避難所だけで配布されるとのことだが、地元の寺まで届けてもらうよう柔軟な対応はできないか。〔南小学校区〕	3日間の水と食糧は基本的に自分で備えてほしい。市職員も少ない。140近くある単位自治会ごとの対応はできない。誰が南小まで受取りに行くのか等、予めできることを話し合っておいてほしい。 ある程度時間がたち、落ち着きを取り戻した状況になれば、各地域への配布なども可能になるものと考えている。
ケガ人は避難所に運び込んでいいのか。そこで対応ができるのか。〔沢地小学校区〕	初期治療及び軽症の人は自治会で治療することが基本。その後、中等症以上の人は、救護所や救護医院へ自治会で運んでいただくことになる。
茨城に行ってきた、しっかりした町内会は現場でもしっかりしているという実感。やってもらいたいことはたくさんあるのに、うまく運用できていない所もある。ボランティアの受け入れ・活用方策でも、差が出てしまう。これを受けて、市としても被災者の受け入れや仮設住宅について、もっと考えてほしい。〔北上小学校区〕	自主防災関係者に各種研修を行い、自主防災の底上げをしている。また、広域避難場所毎に自治会の人を中心にそれぞれの役割を決めているので、みんなが支えることで、うまくいくものと考えている。 仮設住宅については、設置する場所が市有地を基本と考えているので、本人が希望するとおりに行かないことも多々あることになるだろうが、ご理解をいただきたい。
災害時、観光客や商店客への対応も重要である。どこへ連れていったらいいか。安全な場所を設定してほしい。〔北小学校区〕	三島市では、帰宅難民対応として楽寿園と長稜高校をしているので、まずは最寄の広域避難場所に誘導し、その後指定の場所に誘導していただきたい。 (震災直後、市での対応はすぐに出来ない可能性がある。)

◎資機材・備蓄

疑問・課題	市の意見
被災時の食糧について、市の備蓄はどのくらいあるのか。それを防災倉庫ではなく、各家庭に配ることはできないのか。また、防災訓練の際に、参加者に配ったりできないか。〔錦田小学校区〕	3日間の食糧は、水や粉ミルク等含めて自分で準備してほしい。防災訓練の際、賞味期限が迫っている備蓄食糧等を配布することは可能なので、防災訓練実施計画書提出の際に申し出ていただきたい。
防災資機材の補助対象等について、見直してほしい。古い制約が多い。また、数年前に自主防災会に対する補助金に限度額が設定されてしまい、困っている。〔南小学校区〕	防災上必要なものを補助対象としているが、補助対象になるかならないかについては、危機管理課にご相談願いたい。市の予算の限度もあるので、資機材の備蓄についても各自治会で計画的な対応をお願いしたい。特別に対応が必要な場合、検討したいので、具体的に申し出ていただきたい。

地域の取り組み事例

車いすは、2人で持ち上げることができるし担架の機能もある。ちょっと休むこともできる。死亡した方の物など必要なくなった車いすを寄付してもらおうなど、町内会で呼びかけてはどうか。
山中は陸の孤島になると思うので、町内会として1週間分の食糧を用意してある。個人でも3日分。水の問題としては、耐震の水槽もある。実際飲めるかわからないが、これらを利用する訓練を考えなければならないと思っている。

◎世帯名簿

疑問・課題	市の意見
名簿には、特技を持つ者、元医者や看護師、消防士などを登録するとよいのでは。〔中郷小学校区〕	自主防災の世帯台帳には防災上に役立つ資格・技能等の記入欄がある。また、それを整理した人材台帳なども、なるべく整理していただくようお願いしているところです。但し個人情報の問題があり、これらに協力的でない方が多くいるのも現実なので、避難場所に必要な人材を集めるしかない可能性もある。
借家や社宅、自治会未加入世帯の名簿が集まらない。新しいマンションは一切名簿を出さない。個人情報とは何か。はっきりと名簿作成の必要性を示していくべき。東日本大震災から時間が経つと意識が薄れるので、継続的な意識啓発等が必要。〔西小学校区〕	自治会のおっしゃるとおり。出来るところから対応していくことも必要である。今後、その必要性について、広報紙等によって、意識啓発に努めたい。

地域の取り組み事例

回覧板で回しても、ほとんど書いてくれない。封筒に入れて届けてもらう方法にしたら、集まっている。〔中田町南〕
名簿作成については、やってみれば相手は意外にに応じてくれる。大事なものは、秘密を厳守すること、使い方を知らせること、処分をしっかりとすること。皆さんが不安を持たないようにやれば、思った以上にちゃんと回答してくれている。思い切ってやってみてほしい。〔芙蓉台〕

◎要援護者

疑問・課題	市の意見
要援護者リストは市役所へ申請すればもらえるか。家族のリストはもらえないか。〔西小学校区〕	要援護者リストは、本年度は8月から自治会長等の申請により各自治会に提供しているが、家族のリストは提供していない。
市から要援護者名簿をもらったり、町内で作ったりしても、その名簿をどう扱えばよいかかわからず、困っているというのが現状である。〔北上小学校区〕	要援護者リストに記載されている方を、自治会、自主防災会及び民生委員と協力し、個別計画を作成し、災害時に要援護者の救助や安否の確認に使っていただく。
要援護者の把握については、個人情報保護の関係もあり、難しい。市から提供される名簿には、一人暮らしの老人は入っていないので、民生委員との協力も不可欠。この課題は、1自治会として取り組む範囲を超えているので行政としてどうにかならないか。〔佐野小学校区〕	要援護者リストは障害者1・2級、要介護度3～5、特定疾患の方々の氏名住所等を掲載し、各自治会等に提供する。各自治会で個別計画を作成する事が最終目標となる。但し、高齢者の一人暮らし老人については、毎年民生委員に調査していただいているため、要援護者と高齢者を含めて各自治会・自主防災会・民生委員にご協力いただかなければ個別計画の作成はできない状況。(三島市(行政)だけでは出来ないため、各自治会をお願いしている。)

<p>地震があったとき、皆いるときであれば助け合えるが、平日昼間、高齢者だけにいるときが心配。自主防災会のメンバーも働いている人が多く、どれだけ集まれるかわからない。それに対応する仕組みづくりをしていかなければならない。 〔山田小学校区〕</p>	<p>自治会のおっしゃるとおり。平日の昼間いる人を把握して、その割り振りについて、自治会で考えていただきたい。</p>
---	---

地域の取り組み事例	
大社町では5年前にさきがけて要援護者（高齢者・障がい者・乳幼児）台帳を作っている。	
震災後の計画停電では、ペースメーカー使用者について民生委員と連絡を取り、安全確認した。被災時弱者対応については、今年検討予定。〔柳郷地〕	
緑町は個別訪問して、援護の要不要を確認している。助けが必要だという人だけ手を挙げてもらう。	
被災時には、薬もないと困る。旭ヶ丘では有志会といって、会長OBなどで22名ほどのチームを組んでいる。町内会と並行して行動している。元気だったら黄色い旗を出すとか、薬がどこにあるかなど組単位で把握することが大事。薬はプライバシーに関わることなので、言わない人もいる。民生委員は知ることができるが、本人の承諾があれば町内にも知らせることにする。	
芙蓉台では、要援護者の支援ボランティア会が平成22年からスタートした。民生委員を交えた事務局会議を毎月開催。問題点がいろいろ出てくるので、それをクリアしていく。支援ボランティア会があと2～3年経てば充実する。そうしたら、自主防災会に入って、柱になるという形にしないと、機能しないのではないかと。また、支援ボランティア会では、ボランティア受け入れのために、コーディネーターの講習を受けている。3.11のときはボランティア会で本部を立ち上げて、要援護者にすぐ確認を取った。富士宮(3.15)のときも同様。	

◎情報伝達

疑問・課題	市の意見
<p>今回の災害を見ていて、まず情報がこないことが一番の不安と感じる。ライフラインが断たれ、電話も通じない場合、避難所や火事の情報など必要。放送設備がない町内もある。市から情報を発信できるようにしてほしい。停電になっても使えるシステムをつくってほしい。〔北上小学校区〕</p>	<p>同報無線（声の広報）は、独自のバッテリーにより停電時でも一時的な放送が可能なので市の情報を発信できる。広域避難場所には防災行政無線を備えており、災害対策本部や他の広域避難場所と連絡ができる。現地配備員が本部からの情報などを情報班等に伝えるので、そこから自治会の避難者に伝えていただきたい。</p>
<p>どういう時に避難すべきか誰もわからない。どういう連絡が来るのかもわからない。危機管理課には、もう少し具体的に教えてもらいたい。〔北小学校区〕</p>	<p>市として避難する必要があるときなどは、同報無線・広報車・消防団・警察等あらゆる手段を使って対応を図るが、自治会では、事前にどのようなときに避難するのか話し合っておくことが重要である。</p>
<p>フェアキャスト（子ども安全連絡網）を使っての学校連絡網については、災害時に全部の学校が一斉に送ると、サーバがパンクする。〔坂小学校区〕</p>	<p>フェアキャストのシステムは、NTTの電話回線を利用していることから、は、広域的な災害（大規模地震や大型台風など）が生じた場合には、全国各地から多数の利用者が一斉に情報送信を行うことにより、回線に大きな負荷がかかり、トラブルが生じることが多いのが現状である。元来は、不審者情報等の緊急連絡を主眼に開発されたシステムであるため、困難を伴う部分もあると思われるが、災害時にも十分な活用が図れるようシステム提供先に改善の申入れを行っていく。</p>
<p>市のホームページ上で各課に分かれている情報を集約して、わかりやすく載せてほしい。県のHPにある町内別被害想定も、市ホームページで見れるようになればよい。富士山の噴火など総合的に、簡単に見ることができるようにしてほしい。〔山田小学校区〕</p>	<p>市のホームページ上に地震・防災情報にほとんどの内容が記載されており、県の被害想定とリンクをはってあるので、ご確認願いたい。今後、改めてより見やすく方法について、再検討する。</p>

◎消防団

疑問・課題	市の意見
<p>小さい子どもの頃から防災訓練参加や、消防団員と触れ合ってもらえば、将来団員になってくれることにもつながっていくと思う。〔長伏小学校区〕</p>	<p>小さな子供たちに消防の仕事に興味を持たせるため、市内の幼稚園児に幼年消防クラブに加入してもらっているほか、市内小学3年生の社会科の施設見学の受け入れや中学2年生の職場体験（ゆめワーク）を受け入れ、生徒が各種の仕事を体験している。</p>

団員不足が深刻。今は個人情報保護の関係もあり、勧誘がやりにくくなっている。回覧板で募集のチラシを回しても効果がない。団員確保のための仕組みを考える必要がある。〔山田小学校区〕	消防団員確保のためには、各分団が管轄する自治会等の協力が不可欠であり、消防団活動が可能な若者の推薦等について、消防本部・消防団本部が自治会等に協力要請するなど、各分団をバックアップしていく。
消防団の定員については、臨機応変に変えていけるようにしてほしい。〔坂小学校区〕	三島市消防団の定員は条例で500人とされ、また、各分団の定員と管轄地域は規則で定められているので、これに不都合が生じた場合は、その都度見直しを図り改正していきたい。
自分は消防団を22年間やったが、一番負担に感じたのは訓練。全国大会に向けての訓練は、朝5時からやっていた。実際の火災等での出勤は年に何回もない。訓練を緩和できれば入りやすくなり、団員の確保につながるのではないかと。〔坂小学校区〕	消防団員が火災現場で素早く安全な消火活動を実施できるようにするため、ポンプ操法や規律訓練を実施している。その訓練成果の発表の場として大会があり、それに向け早朝や夜間に団員の方が訓練されているが、団員の負担が軽減できるよう無理のない訓練計画を立てていただければと思う。

◎津波・水害

疑問・課題	市の意見
東日本大震災を契機に津波被害の見直しをしなければならないと考えるが、どうなっているのか。〔長伏小学校区〕	狩野川沿岸部が被害にあうかもしれないので、関係各課で協議している。自治会に対しては標高図を作成し、各自でその危険性について考えてもらっている。
海拔がどのくらいか知りたい。〔東小学校区〕	標高図を作成し、自治会の会議で配布した。

◎学校の対応

疑問・課題	市の意見
市（学校・幼稚園）で、小さい子どもの頃から防災教育を。〔西小学校区〕	防災訓練を、幼稚園は毎月実施し、小中学校は年に3回ほど実施するなど、低学年から防災教育を実施している。
地震が起きたら、子どもは家に帰ることになっているが、そのまま学校にさせたほうが安全ではないか。親が迎えに行けない場合もある。〔坂小学校区〕	地震対応マニュアルにより、東海地震に関係する注意情報が発令された際は、社会全体が避難体制をとるため、保護者へ引渡しとなる。しかしながら、突然の地震が発生した際は、第2次避難として運動場で人員把握した後、校舎の安全や余震の状況によって校舎へ戻すこともあれば、運動場に待機することもあれば、場合によっては東海地震と同様に保護者に引き渡すこともある。

◎その他

疑問・課題	市の意見
木造の老朽化住宅が多いので、地震の時は火災が心配。〔西小学校区〕	老朽化の建物はまず、耐震診断を行い、耐震補強することで、火災など他の迷惑になることが防げるので、その点を強調して耐震化を進めてもらいたい。もし火災が起きた時は、自主防災を中心に初期消火に勤めてもらいたい。そのための資機材は、市で2/3の補助地震発生後に避難する際、使用中の機器類のスイッチを切る。また、避難時に分電盤（ブレーカー）を遮断する。（分電盤の位置の確認をしておく）。地震後に電気機器、ガス器具等を使用する際は、ガス漏れや配線器具などの安全確認を行なった後に使用する。普段から電気器具等を正しい方法で使用するよう心がける。可燃物や落下物の有無に配慮する。普段から不要な電気器具のプラグは抜く等の習慣を身につける。
液状化が心配。〔向山小学校区〕	液状化を防ぐには、地盤改良が必要。広域避難場所である学校では、建物については、液状化対応をしていると確認している。
震災後の停電を受けて、下水道課に下水ポンプアップの電源はどうなっているか確認に行った。非常用電気設備はあり、2時間くらいの停電なら何とかできるというが、それ以上の場合の対応ができないとのいこと。市でどうにかしてほしい。〔北小学校区〕	大地震の際、下水道機能はもとより、全市的にライフラインが機能しなくなることが想定される。市においては、応急・復旧に全力を上げ対処するが、即座に平常時の機能が回復するには限界がある。そこで、各家庭・自主防災会においても、非常時の対応を準備しておくことが肝要である。

テーマ2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化

◎子ども会

疑問・課題	市の意見
昔よりも、子ども会の参加者が少ない。先日の子どもの会のドッジボール大会には、5分の1しか参加しなかった。子どもは参加したいが、運営する側の大人が面倒に感じたり、暇がないという。そこが昔とは変わってきている。〔錦田小学校区〕	保護者が役員を任せられるのを嫌がり、高学年になると子ども会を退会する場合もあるが、少子化の影響もあり加入者数は減少傾向にある。地区によっては自治会が子ども会の運営に協力するなど、地域全体で地域の子どもの育成する環境整備と意識の向上を図っていく。
多くの子どもがサッカー、野球、バスケットなどのリーグに参加していて、試合のために沢地小校区の運動会や子ども会の行事に参加できない。日程はあらかじめわかっているので、その日は試合を入れられないよう配慮してもらえないか。〔沢地小学校区〕	スポーツ少年団の理事会や総会で日程等について周知していく。

地域の取り組み事例

子ども会への出席率は非常に高い。習い事で来られない子もいるが、見晴台の夏祭りは大勢の子どもが参加する。他の地区から見ても魅力的ではないかと思う。
坂地区では、子どもの少ない地区は、三ツ谷の子ども会で一緒にやっている。人数が少なくできないところとまとまってやることは、すごくいいことだと思う。
東壱町田では、子ども会に予算を出している。また、敬老会に子ども会が参加。「みどり野ふれあいの園」で芋の苗つけ、焼き芋大会、バーベキュー大会等を開催して、お年寄りと一緒に楽しんでいる。

◎子どもと高齢者の交流

疑問・課題	市の意見
小学校でも、子どもと高齢者が触れ合う行事は特にはない。〔長伏小学校区〕	高齢者との触れ合いは、福祉教育の場面で想定されるが、総合的な学習の時間のテーマが福祉教育でない場合は実施されない。因みに長伏小はこの時間を「みどりタイム」と称し、環境教育や防災教育、食育、福祉教育を行っており、高齢者との触れ合いは6年生が地元にある特養老人ホームの御寿園を訪問している。
通学路に立っているが、交通安全だけでなく、あいさつも大切。学校の姿勢ひとつで子どもの地域とのかかわり方が変わる。町内にあいさつ運動のポスターが貼ってあるが、学校では知らない大人に声をかけられたらついていってはいけなさと教えている。声をかけてびっくりしたという話があった。何のための看板か考えてもらい、活動してほしい。〔東小学校区〕	これまで子どもたちには挨拶は人間関係づくりのために、とても大切であると教えてきたが、時代と社会の変化で知らない人からの声掛けが不審な行為になってしまったことは残念である。しかしながら、知り合いからの挨拶については、これまで通り信頼の上で行われているので、大切にしていきたい。 防犯教室では、「いかのおすし」（知らない人についていかない、知らない人の車に乗らない、大声で叫ぶ、すぐ逃げる、知らせる）という事を教えている。声をかけられた時に、少し話を聞いて、怪しい・怖いと感じたら逃げるようにと教えているが、低学年では判断が難しいので、「知らない人に声をかけられたら逃げる」と教えているところもある。
地域にいるリタイヤされたスペシャリストの方（花、将棋など）に、放課後などお手伝いしていただけると、子どもたちと地域の結びつきが強くなる。一方で防犯上、やたらと学校を開放するわけにもいかないので、いい方法はないか。学校も地域の人材を知らない。〔南小学校区〕	地域の方々には学校に積極的に来校していただき、防犯をはじめ、読み聞かせ、図書、パソコン、調理、音楽、部活動など、現在、約590人の方々あらゆる分野で支援をいただいている。 また、学校での活動中にけが等をされた場合を考慮して、市教委としては賠償保険に加入している。
お年寄りとの交流活動はない。公立幼稚園は、どこかの施設との交流会をしようとしても、交通手段等、いろいろ問題が出そう。園長も交えて話し合いを進めていかないと現実化は難しい。〔北小学校区〕	園児が徒歩手段で行ける近隣の小学校のデイ教室や、老人福祉施設との交流会を積極的に計画し、園児とお年寄りとのふれあいの機会をつくっている。また、近所のお年寄りを園に招き、一緒に遊んだり、遊びを教えていただいている。

<p>農兵節普及会の話で、農兵節が高齢化のため衰退しているの、子どもたちに教えたい。以前は小学校でも教えていたが、今は北中と日大だけだ。お年寄りも踊れるので、子どもたちと一緒に踊れると、三島の文化継承という面でもよい。市からも、率先してやったらどうですかと言ってほしい。〔北小学校区〕</p>	<p>ご指摘のとおり、最近では小学校や中学校で農兵節を指導していません。北中等で農兵節を踊ることができる生徒にパレード等に参加してもらい、多くの子どもたちにPRすることから始めたいと考えています。</p>
--	--

<p>地域の取り組み事例</p>	
<p>子ども会が減ってきて、役員をやるのがいやだという人が増えたので、健全育成会で面倒を見ることにした。子ども、大人、お年寄りの絆ができた。5～6年かけて育ってきたところ。通学合宿（梅名自治会で、町内の子ども達を自治会館に宿泊させ、そこから中郷小学校に通学させ、集団行動や地域交流を図る取り組み）における大人の役割は、自治会館にシャワーがないので銭湯に連れていくこと、マナーを教えることなど。大人も一緒に宿泊する。子ども達も育っている。地域では、中高生が主体となってクリスマス会等開催するなど、交流が促進されていると思う。</p>	
<p>佐野の農家と米づくりをしている。収穫したもち米で餅つきを行っている。</p>	
<p>東小ではフェスティバルで夜の学校体験を実施。お年寄りに昔の遊びを教えてもらったり、クラブ活動のお手伝いをしてもらったりしている。小学校中心に交流の場を設けるのが早いと思う。</p>	
<p>敬老祝金を渡すとき、子ども会でお手紙を書いてくれるという。老人180人に対して子どもが40人しかいないので、どうするかまだ考えるが、子どもに参加してもらい、手紙を渡す際に一言ずつ質問してもらって交流してもらう予定。11月には交流会の開催を予定している。輪投げとか昔の遊び、絵本を読むなどを計画している。〔藤代町〕</p>	
<p>南田町町内会では、老人会や子ども会と交流会を年に1度やっている。フード・マイレージの話や戦争体験の話などして、楽しくやっている。町内の役員だけではなく、福祉士の「めんぼーくん」の協力を得て、楽しくやらせてもらった。30人くらいの小さな集まりだから和気あいあいとできた。子ども達もはしゃぎながら、楽しくできた。福祉士等を利用していくといいのではないかと。</p>	
<p>はったばた幼稚園では年5回、「梅名の里」と交流を行っている。今年度は年中が編成されず、1学年しかないの上下関係を学ぶことができないが、お年寄りとの交流で園児も発表の場がある。涙を流して喜ばれるお年寄りもおり、相乗効果がある。こういう場はありがたい。</p>	
<p>松本幼稚園では、決まったおじいさんが来て手品を見せてくれたりして子どもも喜んでいて。そのような機会を増やせばよいのでは。</p>	
<p>徳倉幼稚園では、年長さんが老人ホームや芹沢病院へおじいちゃんおばあちゃんに会いに行っている。年に1～2回、交流とは言えないかもしれないが、それぞれが喜んでいて。お互いにとっていいことだと思う。また、農育ということで、農業に詳しい地域の方に梅の漬け方を教わったりして、多少の交流がある。</p>	
<p>幸栄会（老人クラブ）で子どもとのふれあい会を年に1～2回やっている。今年からは、子どもは何に興味を持っているのかということで、保護者から意見をもらったり要望を拾い集めて、それを活かして、回数も増やしたりして交流を深めたい。〔幸原町〕</p>	
<p>スクールガードを始めて3年目、北上小学区では5年目になるが、老人会の方に、月1回でもいいからスクールガードの活動に参加してもらいたい。一番手取り早い子どもとの交流で、皆顔を覚えてくれる。スクールガードの帽子やベストを着ていなくても、子どもの方から手を振ってくれる。子どもから元気をもらって、自分たちのためにやっている。</p>	
<p>子ども会と老人会の連携として、毎年子どもたちと一緒に夏休みに輪投げ大会を実施している。自分の子や孫は遠くに住んでいて、逆の世帯もあるが、芙蓉台と一緒に住んでいるということで、地域の子も達と祖父母と孫のような関係ができる。まず大人からあいさつすることが重要である。それが、絆の第一歩。</p>	

◎老人クラブ

<p>疑問・課題</p>	<p>市の意見</p>
<p>高齢化が進んでいるが、老人会の参加率は悪い。〔西小学校区〕</p>	<p>老人クラブの会員自身が加入を呼びかけるなどをして加入率の増加を図っているところである。市としても、今後様々な加入促進活動を実施していきたい。</p>
<p>老人会とか敬老会とか、名前が良くない。老人という言葉が嫌がる。「高齢者」という表現が良いのでは。〔山田小学校区〕</p>	<p>現在、三島市老人クラブ連合会の愛称を「いきいきクラブ三島」として活動している。また、各単位老人クラブでは、地域名などを取り入れる等、色々なネーミングを工夫している。ただし、まだまだ浸透していないのが実情であるため、より一層の周知に努めたい。</p>

<p>地域の取り組み事例</p>	
<p>見晴台の老人会は昨年からは休会ということになっているが、活動形態を変えて今でも活発にやっている。メンバーも増えている。新しいクラブも増やしている。年齢制限を取り払って、家庭の若い奥さんたちも入ってもらい、従来より活発になっている。</p>	

◎青年会・地域団体

地域の取り組み事例
長伏では、青年団が解散してしまったが、新たに世代を超越したグループを組織し、各方面で町内のコミュニケーション推進に活躍している。
西本町には青年クラブがある。30～60歳代の28人で構成。夜中の12時から夜警を実施。35年続いている。シャギリも教えている。青年クラブがなかったら、運動会もお祭りも成り立たない。西本町の誇りである。
寿町には「ゆうこう会」という団体があり、三十数年経つが、夜回りや運動会をやっている。結成のきっかけはお祭りで、シャギリには幼稚園児も参加して交流を図っている。
坂地区活性化協議会は、地域の代表者の組織だが、子どもたちをサポートしている。自治会長たちは1年任期でやるので精一杯。このような組織をつくり、提言してまとめていくことが大事ではないか。2代目を育てていこうということで、自治会長に話をしている。他の地区でも、やった方がいい。

◎スポーツ

地域の取り組み事例
親子でできるティーボールを推進している。昨年からやっているが、やれば喜んでもらえる。〔中郷小学校区〕
トリム教室を、お年寄りから小学生を交えて夜7時から実施している。また運動会も9町内で小学生を交えて開催している。親子で一緒にやる種目、大人に交じってやる種目があり、親子一緒に食事をとるなど、楽しい運動会である。〔向山小学校区〕
退職してからソフトテニス始めた。高齢者も多数参加して、週2回やっている。最近では体も動いて、やっていると元気になる。光ヶ丘3丁目ではゴルフの会をやっている。年4回で通算120回やっている。ゴルフの後、公民館で一杯飲む。とても楽しいので、そういうことを皆で誘い合ってやっていくとよいのでは。

◎祭り・イベント

地域の取り組み事例
松が丘では、中高生ボランティアと親たちで祭り（カラオケ大会）を開催。子ども会はないが、祭りには参加している。これによって自治会活動もうまくいっている。
初音台では以前お祭りがあって、縦のつながりがあった。お祭りがなくなって、隣にどんな子がいるかもわからないと言われ、ボランティアでお祭りを復活してもらった。子どもの年代間の繋がりも大事で、小学生だけのリーダー会議でなく、小・中・高合わせたリーダー会議にした。子どもたちの中でもリーダーを育てていくことが大切。その中で、縦の繋がりをつくっていく。
徳倉では、盆踊り、運動会、八乙女神社の祭りなどが、皆がまとまって騒げる行事。子どもを集めるには、お菓子を用意することが大事。大人が飲み食いする区のお金を少し回して子ども達のためにつかうこと。子どもが集まれば親も来て、賑やかになる。そういうやり方でやっている。

◎その他

疑問・課題	市の意見
結婚しない人が増えて地域のコミュニティが衰退する。市に婚活の世話をしてほしい。〔長伏小学校区〕	婚活に取り組んでいる市内の団体を支援するための補正予算に計上した。関係団体とより良い活動内容について情報交換をするなど、連携を深めながら進めていきたい。
自治会長をサラリーマンがやっているが、平日の行事が多すぎる。仕事を休まなければならない日が多すぎる。土日に分散してもらいたい。そうすれば自治会長を引き受けてくれる人も増えるのでは。何でも自治会長が出て行かなければならないという状況を緩和する方を考えてもらいたい。	行事の分散については、配慮していく。また、担当者の代理出席など会長以外が出席できるような方策を研究する。